

平成 25 年 6 月 28 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 25 年 6 月 28 日 (金曜日)

午後 2 時 15 分から午後 3 時 20 分まで

2 場 所 阪之上小学校 視聴覚室

3 出席委員

委員長 大橋 岑生 委 員 羽賀 友信 委 員 中村 美和
委 員 青柳 由美子 教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育部長	佐藤 伸吉	子育て支援部長	矢沢 康子
教育総務課長	若月 和浩	教育施設課長	中村 仁
学務課長	田村 均	学校教育課長	田中 仁
子ども家庭課長	佐藤 正高	保育課長補佐	小林 信行
中央公民館長	武樋 正隆	中央図書館長	金垣 孝二
科学博物館総括副主幹	小熊 博史	学校教育課主幹兼管理指導主事	大矢 慎一
学校教育課主幹兼管理指導主事	笠原 徹	学校教育課主幹兼管理指導主事	山之内方史
スポーツ振興課長	川上 春雄		

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	茂田井裕子	教育総務課庶務係長	水内 智憲
教育総務課庶務係	大橋 悠子		

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 31 号	学校統合及び条例改正の申出について (長岡市立学校設置条例の一部改正)
3	第 32 号	長岡市立学校管理運営に関する規則の一部改正について
4	第 33 号	長岡市教育委員会事務決裁規程の一部改正について

7 会議の経過

(大橋委員長) これより教育委員会 6 月定例会を開会する。

日程第 1 会議録署名委員について

(大橋委員長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第 2 項の規定により、羽賀委員及び青柳委員を指名する。

日程第 2 議案第 31 号 学校統合及び条例改正の申出について(長岡市立学校設置条例の一部改正)

(大橋委員長) 日程第 2 議案第 31 号 学校統合及び条例改正の申出について(長岡市立学校設置条例の一部改正) を議題とする。事務局の説明を求める。

(田村学務課長) 先月の定例会で報告のとおり、5 月 13 日に栃尾地域の西谷小学校 P T A と地域住民の総意として、西谷小学校の統合に関する要望書が提出された。教育委員会は要望に沿い、西谷小学校を栃尾南小学校に統合することとし、長岡市立学校設置条例の一部改正を申し出るものである。具体的には、条例の別表第 1 から西谷小学校を削除するものである。平成 27 年 4 月 1 日より施行する予定であり、本条例改正は 9 月議会に諮る予定である。なお、西谷小学校統合に向けた要望への対応は 5 項目ある。要点としては、平成 27 年 4 月に栃尾南小学校に統合するため

の準備を進める。統合後の通学にはスクールバスを運行する。新入学児童の学区外就学とそれに伴うきょうだいの転校の希望についても配慮し、統合後の児童が新しい環境に円滑に適應できるよう努める。統合後の校舎及び跡地利用については、地元と協議のうえ、栃尾支所と連携して進めたい。この方針で来月3日の地元関係者への説明会に臨む予定である。

(大橋委員長) 昨日訪問した西谷小学校について、委員の皆さんから感想、質問、考えをいただきたい。

(青柳委員) 小人数の複式の学校ということで、おっとりして優しい子が多いが、競争心が足りないというイメージを思い浮かべるが、そのとおりの学校であった。6年生4人と5年生3人が卒業した後は1学年1人ずつになり、先が見えた住民の苦渋の選択であったと思う。教育委員会に希望を提出したものの、反対意見もあったようだ。先生方が子どもたちと一緒に学校を移るのかと質問したが、移らないとのことで、子どもたちだけで移るのは少し寂しい感じで残念であった。現状は変えられないので、子どもたちには、学校が変わるというめったにできない経験をするのだという、前向きな見方を先生方からご指導いただきたい。

(羽賀委員) 今回の統合については、住民たちが今後の先行きを真剣に考えて、地域のため決断したものだと思う。自分たちで納得した答えを教育委員会が受けるということを重く受け止めている。子どもたちが不安なのは当然なので、教員の何名かが相談できる立ち位置を維持したままで新しい小学校にいたら、子どもたちの安心につながる。

(中村委員) 西谷小学校は全校児童が11名であり、1年生から4年生まで1人ずつしかおらず、子どもたちの切磋琢磨が難しい状況である。平成23年の秋に周年行事の音楽劇を見たことがある。今より人数が多く感じたが、同じ人数で1人何役もこなしていて、表現力豊かな個の力を感じた。統合に不安はあるが、子どもたちは柔軟性があり、それぞれ個の力をもっている。統合する学校と交流を深めて子どもたちがスムーズに移れるように、受入れ側の学校も配慮して欲しい。

(大橋委員長) 先生方がメリット、デメリットについて話され、真剣な取組は受け止めたが、もう少し工夫ができないか。残されたあと1年間、例えば3、4年生の女の子は、1人は発想が豊かであり、もう1人はしっかりしていた。複式授業だが、

もっと発想を変えて凝縮する形で諸活動が組み込めるようにならないか。校長先生の話では、地元の8世帯は子どもも保護者も熱心だが、8世帯の保護者の中にもいろいろ意見があった。子どもたち同士も話し合っって不安に思う部分があったようだが今は落ち着いている。適正規模にするべく、この方針で地元を大切にしながら統合に向かうのは良いことだと思う。

(加藤教育長) 地域のよりどころであり、文化の伝統と言われる学校を存続させるか否かの決断であり、それぞれの立場があっって複雑な問題であったが、最終的に目の前の子どもたちを第一に考えた英断だった。そのことに最大限に敬意を払い尊重したい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よっって、本件は原案のとおり決定した。

日程第3 議案第32号 長岡市立学校管理運営に関する規則の一部改正について

(大橋委員長) 日程第3 議案第32号 長岡市立学校管理運営に関する規則の一部改正について を議題とする。事務局の説明を求める。

(田中学校教育課長) 新潟県教育委員会から昨年12月28日に「新潟県公立小学校、中学校及び特別支援学校の教職員の任命関係取扱規程」の一部改正通知があった。今回、遅くなっって申し訳なかったが、この県からの通知に基づき、長岡市立学校管理運営に関する規則に新たな職として「総括事務主幹」を加えるものである。市立学校の事務職を総括する立場の職として総括事務主幹を位置づけるものである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 平成25年4月1日からの実施とするのか。

(田中学校教育課長) 長岡市の場合、本年4月に南中学校に既に総括事務主幹が1名配置されている。平成25年4月1日に遡っって適用することとしたい。

(大橋委員長) それに対して問題はないのか。

(田中学校教育課長) 特に問題はない。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

日程第3 議案第33号 長岡市教育委員会事務決裁規程の一部改正について

(大橋委員長) 日程第3 議案第33号 長岡市教育委員会事務決裁規程の一部改正について を議題とする。事務局の説明を求める。

(若月教育総務課長) 4月1日から南中学校に総括事務主幹に伴い、この総括事務主幹に一定の権限を付与したいものである。教職員の諸手当の認定について県の条例で市町村の教育長に事務が委任されており、長岡市教育委員会はこの事務を各学校の校長に委任しているが、今回総括事務主幹が置かれ、事務主幹が置かれていない学校も兼務することとなったことにより、事務の専門職である総括事務主幹が原則認定できるようにするものである。このことは5月31日に開かれた学校事務共同実施推進協議会で承認されたために改正するものである。施行は7月1日からである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) ないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

(大橋委員長) 本日の日程は終了する。次に協議報告事項に入る。報告事項として、6月議会における教育委員会関係の質問事項について、事務局の説明を求める。

(矢沢子育て支援部長) まず一般質問について説明する。高見議員から、子ども・子育て支援新制度への移行に伴う今後の当市の子ども・子育て環境の整備についてご意見があった。新しい子ども・子育て支援制度は都市部の待機児童対策の充実に視点が向いているように思う。地域の子育て支援にもしっかりと財源が振り向けられるようにしてほしい。高見議員は栃尾地域の出身であるが、栃尾には私立保育園6園と公立保育園1園でしっかりやっている。私立保育園が少子化でも事業がきちんできるとの助成をお願いしたいとのことであった。また、長岡市として公立保育園の民営化をどう考えているかとの質問があった。このことについて、現在、「地域における保育サービスのあり方検討部会」を始めたので、今後方向性を示したい。8時間という保育時間が基準になっているが実態は11時間保育であり、実態に合っていない。そういったことは承知しているので、新制度の検討の中で議論して注視していくと答弁した。次に、子ども・子育て会議の設置、事業計画についてはどのように考えているかとの質問があった。このことについて、今年度末に具体的な事業計画を出していく。新しい制度では保育の認定制度が始まる。法律で決まっているが3つの認定に分けられる。1号は保育を必要としない子、2号は3才以上で保育を必要とする子、3号は3才未満で保育が必要な子である。市町村が仲立ちをして、その子に必要な保育園・幼稚園を斡旋紹介する制度である。きちんと個別の事情に配慮していくので今後も丁寧に説明していくと答弁した。次に、放課後児童クラブの拡充についての質問があった。このことについて、現在、概ね小学校3年生までが対象となっているが、これを全学年に拡充する。事務担当の考えとしては、一律に小学校6年生まで拡充するのではなく、個々の状況を考慮して対応したいと考えている。栃尾地域では、学校規模が小さくて児童クラブがない地域があり、保護者からもなんとかならないかと言われている。一律の児童クラブが良いのか、学校の中でどのような放課後の対策が取れるのかなど、様々な視点で地域の方々と検討していくと答弁した。

(佐藤教育部長) 続いて、高見議員から、昨年度末に文部科学省の指導による体罰に関する実態調査が行われたが、社会の風潮としてまだ体罰を容認する人がいるのではないかと。文部科学省が部活動での指導のガイドラインを示し、部活動の意義、厳しい

指導と体罰の違いを示した。体罰に関する調査を今後も毎年度続けていくべきではないかとの質問があった。このことについて、体罰は違法な行為であり、心身に悪影響を与え、人権侵害であるため絶対に許されるものではない。今回の体罰調査では、以前お知らせしたとおり教員3名が体罰を行っていたという結果であった。この教員には厳しく指導し、年度初めの校長会でも教育長から厳しい指導を行った。体罰があった時にすぐに相談できる体制が大切なので、子どもサポートコール等にすぐ相談してほしい。学校から体罰の調査を今後も実施したいとの要望があった場合は、教育委員会として学校と連携して取り組んでいきたいと答弁した。木島議員からは、通学路における安全確保について質問があった。このことについて、本年度実施した通学路の一斉点検の結果、防犯灯の新增設要望が30箇所あった。これについては教育委員会が中心になり、関係機関や町内会等と連携して対応していくと答弁した。次に文教福祉委員会での質問事項について説明する。丸山委員から、熱中！感動！夢づくり教育について、現場の評価、今後の方向性等について質問があった。このことについて、現場の評価は、学校単独ではできないクラシックコンサート、ミュージカル等が高い評価を受け、子どもたちに喜んでもらっている。9年目となる今年度は基本理念を維持しながら、10年目を見据えた新しいものを取り入れるべく見直していきたいと答弁した。

(矢沢子育て支援部長) 関委員より、成人式のあり方について、アオーレで2回開催したが評価はどうか、今後どうして行くのか、現在、支所地域ごとに開催している成人式を今後どうするのかとの質問があった。このことについて、アオーレでの開催は家族、市民がお祝いできる場を作り出している、出席のしやすさや、まちなかのにぎわい効果があったが、立ち席があって騒がしかったという反省点があり、来年度は改善したいと考えている。来年の式典については、ナカドマとアリーナの間の扉を閉めて式典らしくする部分と、お祝いして盛り上げる部分の両方を工夫したい。支所地域での開催については、各地域の特色や良さを生かして当分は地域ごとの成人式を開催したいと答弁した。

(佐藤教育部長) 中村委員から縄文文化に対する取組について、昨年度は大英博物館で土器を展示したが今後の活用はどうか、馬高・三十稲場遺跡を今後どのように整備するのか、もっと縄文文化を宣揚してはどうかとの質問があった。このことについて、

大英博物館の展示では約 12 万人が来場し、日本に関するテーマでは過去最高を記録した。今年度は大英博物館学芸員 2 名を招いて講演会をする予定で交流している。馬高・三十稲場遺跡は、今年度新しい円錐形の竪穴式復元住居を増設して整備している。また、三十稲場遺跡の縄文の森も整備する。縄文文化の宣揚としては新潟県立歴史博物館や藤橋歴史の広場等と連携して情報発信したいと答弁した。桑原委員からは、食物アレルギーについて質問があった。このことについて、アレルギーを有する子どもの人数を報告するとともに、エピペンを全ての学校に備え付け、職員研修を今年度 13 回予定しており、小・中学校では校内研修を全ての職員が受講するようにしている。アレルギーを起こす原因物質を含む給食以外の物品、例えば、小麦粘土などは長岡市としては使わないよう指導していると答弁した。小坂井委員からは、学校施設における木材の利用の促進について質問があった。このことについて、栖吉中学校武道館など、可能な限り木材利用に努める方針である。農林部が策定した「木材利用の促進に関する基本方針」について、教育委員会としては今までどおり学校建築に木材を使用する方針であると答弁した。酒井委員からは、今月 26 日から本日まで長岡工業高校と長岡高等専門学校の生徒が出場している「ロボカップ 2013 オランダ世界大会」に関連した要望があった。大会の成績はどうかかわからないが、世界大会から生徒が帰ってきたら、市長報告を 5 時頃から始めるなどして、たくさん子どもたちが参加できるように、盛り上げ方を工夫してほしいとのことであった。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(中村委員) 桑原議員からの質問に関連して、食物アレルギーのエピペン対応とは何か。

(矢沢子育て支援部長) エピペンとはアドレナリン自己注射薬のことで、食物アレルギーが起きて呼吸困難になった時、自分で打つことができる注射薬である。それを処方されている子が学校、保育園、幼稚園にいたので、緊急時注射するために保護者と相談したり、研修を受けるなどして預かっているものである。

(青柳委員) 文部科学省が作成した運動部活動の指導ガイドラインはどのようなものか。

(佐藤教育部長) 部活動の意義、やり方が詳しく書いてある。厳しい指導と体罰の違いも記載されている。

(青柳委員) それは希望すれば見せてもらえるのか。

(佐藤教育部長) みなさんのところにお届けする。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、平成 25 年度「地域・子ども元気塾助成事業」について、事務局の説明を求める。

(田中学校教育課長) 熱中！感動！夢づくり教育「地域・子ども元気塾助成事業」は、学校だけでなく、地域の団体、NPOで子どもたちを元気にし、学習意欲を引き出す事業を行う団体に助成するものである。「自然・科学・社会・文化・芸術分野」には、今回4団体の応募があったが、助成を決定したのは2団体である。一般社団法人長岡青年会議所のキャリア教育事業と、おやこ遊学塾の山通地区の自然を生かした事業に助成する。不採択団体となった2団体は、国史愛好会と長岡市民放射線測定会である。国史愛好会の不採択理由は、支出が団体内部の謝金にあてられていたり、日本の神話や建国の歴史は子どもたちには難しいとの意見が出たためである。長岡市民放射線測定会の不採択理由は、やはり支出が団体内部的に使用されることと、安価な測定器で数値を計ることが、本当に放射線に関する正しい知識を与えるものが疑問であるためである。審査員については資料記載の通りである。

(川上スポーツ振興課長) 続いて「地域・子ども元気塾助成事業」の「スポーツ・レクリエーション分野」について説明する。本年度の応募状況は例年より少なく6団体であった。審査会で提出書類やプレゼン内容を精査し、6団体に対し交付決定をした。その内、今年度は2団体から新規申請があった。新規申請の山通コミュニティ推進会議は、冬季間の体力づくりやスポーツを通じた親子のふれあい雪合戦大会の開催などの事業を行い、宮本スポーツ少年団は、ヨット体験乗船などを通してスポーツ好きな子どもを増やす活動を行う。毎年度10団体以上の申請があったが、助成の上限が3回となっており、3回助成済みの団体が多くなったため、今年度は少なくなった。PR方法は、スポーツ協会、スポーツ少年団、各コミュニティセンターに直接案内する他、市政だより、ホームページにも掲載したが、新規申請団体が増えるように工夫したい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(青柳委員) 助成の上限が3回までであり、今後さらに応募が少なくなっていく懸念がある。「自然・科学・社会・文化・芸術分野」では4団体のうち2団体しか採択されなかったが、予算上、何団体まで採択することが可能なのか。

(田中学校教育課長) 「自然・科学・社会・文化・芸術分野」では10団体程度の予算がある。

(青柳委員) 申請が少ないからなのか、両分野で同じ山通地区の事業が採択されているが、地域性は考慮しなくても団体が違えばよいのか。

(田中学校教育課長) 団体や事業の中身が違うので問題ない。

(青柳委員) 申請件数の減少は何か対策を講じたほうが良いと思う。

(川上スポーツ振興課長) 「スポーツ・レクリエーション分野」では、予算上、7団体程度を採択することができる。昨年度は15団体、平成23年度は10団体から申請があり、審査で落ちる団体がある状況であった。来年度以降、新しい団体から応募いただけるようPRしたい。

(大橋委員長) 事業の継続のために努力していただきたい。熱中！感動！夢づくり教育の大切な事業であり、採択団体が固定されるのは良くない。

(羽賀委員) 不採択団体からクレームはないのか。特に思想信条などに配慮が必要なのでは。

(田中学校教育課長) 十分な説明を行っているため特にクレームはない。

(加藤教育長) 「スポーツ・レクリエーション分野」では山通コミュニティ推進会議が採択され、「自然・科学・社会・文化・芸術分野」では山通地区で活動するおやこ遊学塾が採択された。このおやこ遊学塾はどこに所属する団体なのか。

(田中学校教育課長) 山通コミュニティセンター所属である。

(青柳委員) 同じではないのか。

(加藤教育長) 同じであればそう表記をしなければならない。

(田中学校教育課長) 表記の仕方に配慮したい。

(加藤教育長) 表記もそうだが、分野が違うとはいえ、同じ地区で2つ採択して大丈夫なのか。

(田中学校教育課長) 大丈夫である。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、第1回長岡市社会教育委員会、長岡市公民館運営審議会の会議報告について、事務局の説明を求める。

(武樋中央公民館長) 今年度第1回目の会議を5月29日に開催し、社会教育関係各課から今年度主要事業を説明した。質疑応答の主な意見としては、支所地域で今後コミュニティセンター整備が進むが、公民館や分館の将来的方向性についての質問があった。コミュニティセンターと公民館という2つの組織があると、それぞれで類似の事業が出てきてしまう可能性がある。実際、三島地域では公民館もコミュニティセンターもあり、同じ事業を別々にやっていて参加者が分散しているという課題がある。地域の実態に合わせ強制的ではないが、コミュニティセンターが立ち上がり、しばらくして落ち着いたら公民館の事業をコミュニティセンターに移行させたいという考えを説明した。次に、地域・子ども元気塾助成事業のスポーツ・レクリエーション分野について、今年度は6団体への助成ということで件数が少なかったが、ある程度の基準を満たした団体全体に助成金が行きわたるように審査をお願いしたい。1団体の上限は20万円だが、予算枠内であれば採択してほしい。さらに周知に努めてほしいとの意見があった。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 三島地区ではコミュニティセンターへの公民館移行の話は進んでいる。他地域ではこのテーマについて、毎回どのように考えれば良いか話題になっている。教育委員会の立場できちんとした考えを示してほしい。

(武樋中央公民館長) 内部的には方針を作成してあるが、コミュニティセンターの直接の所管は市民部市民活動推進課なので、連携しながら、各地域で会議が立ち上がっているところには公民館の考え方も説明し、情報を共有している。支所長や支所の担当にも公民館の方向性について説明している。今後も必要があれば公民館職員が出向いて説明していきたい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、「生誕90周年 山下清展」の開催について、事務局の説明を求める。

(金垣中央図書館長) 7月13日から8月8日まで「生誕90周年 山下清展」を中央図書館2階美術センターで開催する。代表作「長岡の花火」の貼り絵や愛用したリュックなどの遺品を含め180点を展示する。「長岡の花火」と大花火大会をコラボレーションさせることで、市内外にシティプロモーションを行う。7月13日の開場式には、教育委員の皆さんからご出席いただきたい。当日は引退した伝説の花火師の嘉瀬誠司さんも招待し、式典終了後は山下清氏の甥の山下浩氏による展示解説も予定している。関連イベントは配布のチラシをご覧ください。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、「鈴木孝枝写真展 - 越後路40年の眼差し -」の開催について、事務局の説明を求める。

(金垣中央図書館長) 7月13日から9月10日まで「鈴木孝枝写真展 - 越後路40年の眼差し -」を栃尾美術館にて開催する。栃尾をはじめとする県内の石仏、風景写真150点を展示する。特に手漉き和紙に栃尾地域をはじめ県内の石仏をプリントした作品は、独特な表現方法として大変注目を集めている。7月12日に開場式と内覧会を開催する。教育委員の皆さんには事前に御案内を送らせていただいた。ご都合のつく方は是非ご出席いただきたい。主な関連イベントは配布したチラシをご覧ください。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、白樺保育園の休園について、事務局の説明を求める。

(小林保育課長補佐) 休園する保育園は大積コミュニティセンターと一体となっている白樺保育園である。当園は3歳児、4歳児が0名、5歳児5名で、来年度は保育する園児がいなくなる。地域全体としても現在2歳児4名のうち3名が宮本保育園に入園している。入園していない1名も宮本保育園に来年度入園したいとのことである。現時点で平成26年度入園希望者がいない見込みである。今後も乳幼児の増加が見込めないことから、集団で成長するという子どもの環境を考えると保育園を維持するのが難しいため、来年度は園児の募集をせずにしばらく休園したい。地

域の方々にも相談し、地元町内会からも、このような児童数では仕方がないと納得していただいた。今後は地元町内会と連絡をとりながらしばらく休園し、いずれは閉園して、その後の建物の活用などについて地域の方々に丁寧に説明して理解を得たい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、長岡市青少年問題協議会委員について、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 長岡市青少年問題協議会委員の新しい名簿を資料として配布した。当協議会には青柳委員からも参加いただいている。この4月以降、推薦団体の人事異動等で委員に変更があり、4名が新任となった。新任となった委員の推薦団体は、長岡警察署、長岡児童相談所、長岡地区高等学校生徒指導協議会、長岡市小中学校PTA連合会である。4月下旬に決定していた団体もあるが、長岡市小中学校PTA連合会の人事異動が5月下旬に決定したため今回の報告となった。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、子宮頸がん予防ワクチン接種について、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 中学1年生女子生徒の保護者宛てに、子宮頸がん予防ワクチンの接種を積極的に勧奨しないことになった旨の教育委員会通知と、厚生労働省からのパンフレットを学校経由で配布した。子宮頸がん予防ワクチンは平成25年度から定期接種となり、積極的に勧奨するものとして、これまで教育委員会定例会でも状況を報告させていただいたが、厚生労働省から、ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な痛みが接種後に出るケースが全国的に発生したため、国民に適切な情報提供ができるまでの間、接種を積極的に勧奨すべきではない旨の通知があった。6月14日の夜に第1報が入ったため、17日の夕方から18日の午前中にかけて、通知とパンフレットを各中学校に大部分は持参して配布した。定期接種を中止するものではないが、積極的な勧奨を控えることになった。定期接種は中止しないので希望すれば無料で接種できるが、接種に当たってはこの厚生労働省のチラシを

熟読いただき、副反応等の危険性を十分に理解したうえで接種を決定してほしい。

これまでに約 20 件程度の電話による問い合わせが市民から寄せられた。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(加藤教育長) 子宮頸がん予防ワクチンは 16 型 H P V と 18 型 H P V の 2 種類に利くが、100 種類のタイプのうち 2 種類に利くだけのようである。厚生労働省のパンフレットにも、子宮頸がんそのものを予防する効果はまだ証明されていないと明記されている。非常に保護者も迷うところであろう。積極的な勧奨をしないというのは良いと思う。

(大橋教育長) これからもいろいろと問い合わせがあると思うが、よろしくお願ひしたい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。他に報告事項はあるか。

(佐藤子ども家庭課長) 家庭でワクワクお手伝い通信の最新号を配布した。今回も青柳委員から作成いただいた 4 コマ漫画を掲載しており、子どもや保護者に良くわかる深いメッセージとなっている。裏面に掲載のポスターコンクールは子どもと保護者が一緒になって参加する取組みとなっており、小学校 4 年生から 6 年生が対象である。賞を設けており、審査委員長はデザイナーズネットワーク長岡から選出させていただくようお願いしており、他の審査員は小学校の先生 3 名と子育て支援部長の計 4 名で、合計 5 名で審査する。11 月に表彰式を行う予定である。相応しい場を設けてしっかりした表彰式を行いたい。次に、青少年育成センターがヤングテレホン&メール相談について、電話番号とメールアドレスを掲載した啓発カードを作成した。毎年、夏休み前に小学校 1 年生から高校 3 年生まで全員に配布している。高校については 7 月 2 日に全ての高校を回って現状を聞き取りしながら配布したい。学校にはポスターも配布して掲示してもらおう。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。他に報告事項はあるか。

(金垣中央図書館長) 中央図書館文書資料室が主催する長岡市史双書を読む会の講

座として「長岡市公会堂とその時代」のパンフレットを配布した。アオーレ長岡1周年のタイミングであり、今まであまり知られていない長岡の歴史を紹介する興味深い内容になると期待している。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。他に報告事項はあるか。これをもって協議報告事項を終了する。

(大橋委員長) 本日は、定例会の前に東部保育園、西部保育園、阪之上小学校、表町小学校を訪問した。委員の皆さんの意見、感想はいかがか。

(中村委員) 西部保育園と表町小学校を訪問した。西部保育園は園長先生がおおらかで、ざっくばらんな説明をしていただいた。街中にある保育園なので園庭は狭く、屋上を利用したプールが夏場設置されていた。もともとお寺が経営しており、園児たちは月1回、お寺の本堂でお参りをしているため、10分くらいの正座は平気である。保育園ではサスペンダー、紐の付いた服、フードのある服など危険を伴う衣類は禁止しており、危険防止に努めていることが保護者に好評のようだ。表町小学校は特色ある取組をしていて、町校魂を大切に、自然体験教室では市内でも有名な5年生の遠泳と、6年生は立山自然教室に3泊4日で滞在している。伝統や鍛錬をつい重くとらえがちであるが、時代のニーズや保護者の心配もあるため、行事自体を楽しく充実させようとする先生方の取組が良かった。子どもたちの授業も大変落ち着いていた。子どもたちの書いたコメントは、名刺サイズの紙にどの子もびっしり書いてあり、力のある子がいると思った。大きな行事により子どもたちの体力や自立心が養われていて良いと思った。

(青柳委員) 西部保育園は定員60名のところ66名受入れていた。園児たちは各教室でしっかりルールを守っていた。表町小学校は建物が古いが良く整頓され、古さの中に良さを感じる学校であった。ネームプレートに英語が書いてあるなど、他の学校では見受けられないものもあった。「縦割りから学ぶ」が学校のテーマで、周りを見ながら判断して行動する心を育てるという目標が良かった。先生方のその願いが児童に伝わり、落ち着いた授業風景であった。

(大橋委員長) 西部保育園は市内の西部地区にあるかと思ったが、渡里町の真ん中

にある。昭和 23 年 1 月に発足した園で、当時市内には東部保育園と西部保育園の 2 園だけしかなく、伝統と志を強く感じた。園長はじめ副園長、保育士は人間的に明るく親しみやすく好印象であった。町の中心部にあるため安全には留意しているようだ。園児は少ないが良き古さを継承してがんばっているようであった。表町小学校では見学した 3 年生の学級は落ち着いて良く学習していた。社会科の授業かと思ったら長岡の良いところを探そうという国語の授業で、カードを束ねながら学習するユニークな授業であった。教科書にも載っていて教材の新しさも学んだ。非常に落ち着いて一生懸命やっていた。

(羽賀委員) 東部保育園と阪之上小学校を見せていただいた。東部保育園は西部保育園と同じ昭和 23 年の認可だが、戦前からやっていて長岡で一番古い保育園である。無駄なデッドスペースが無く、忍者の隠し部屋のように工夫されていた。モンゴル、フィリピン、韓国の園児もいてぶつかることもあるが、うまく管理しているようだ。一番驚いたのは屋上に天然芝を敷いてプールがあり、ベランダなど狭いスペースをフル活用していることだ。阪之上小学校はさすが伝統と格式の学校であると実感した。先生も生徒も学校全体も良い雰囲気であった。発達障害の生徒の率が高いと聞いたが、授業に力があり児童も集中しているため、発達障害のある児童も引っ張られて混乱なく進めていたことに感銘を受けた。学校にも教員にも生徒にもイノベーションが効いている学校であると感じた。

(加藤教育長) 東部保育園は西部保育園と同様に、1 日 1 回手を合わせて仏様を拝む時間があり、園舎の中に 1 箇所静かにする場所がある。本堂で誕生会をする時に園児はきちんとするとのことであり、大切なことだと感じた。理事長以下、安定した経営をしていてさすがであった。阪之上小学校は平成 12 年築の新校舎を目いっぱい活用し、働く教員が自信と誇りを持っていて明るく生き生きとしていた。児童は幸せである。大変良かった。

(大橋委員長) これをもって本日の定例会を終了する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員